2、今迄の企業状態は如何、需要に迫れる事業ありや。

否。月並なれは経営なし、需給は我分の均衡あり、需要に迫れる事業として、救ひやうて多忙となりや。ものあり。

3、今迄従事職工の現在数は如何、尚協力の意ありや。

解雇したものを除き、二百九十五名なり、協力は尚五六十人を[illegible]譲るも差支へなき状態にあり。

備考

次で、昔日のやうな不況結果に化れるに就ては、今迄は正如何なる態度をとられるか、或はなるかを、大いに知れたるに、当分現状の如く（工場を開きたるま）にて、成行をもみるより外なしかなしと云ふ。

四、罷業団側。

さゝやかな平屋建の、うら口の一つのアジトの工場を持つ此経者部とある、罷業団本部では、相当に多い、何日か同盟会の会員、従業員、一方村長、従業員、地元の応援としては野田機械会の全野業が数名の組合と共に百五十日間の最の隊員となって、多く応援しており、室のゆかうらの二の工場争ひは数日の間会員が、ニかつこれ一団となってやりん会社の不当を詰して居る。何れも此議は決定して、更に結束的に闘争せんとする意気を示して、何れも生活苦を忍びながら、而かもそれを相互に励ましあい、励ましあって会に勝つ決意である。

財團法人 協調會